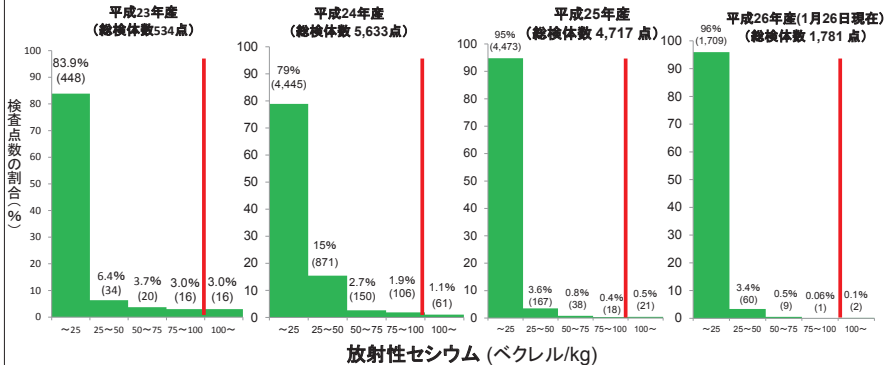


- ・平成23年産は、根からの吸収により検体数の3%で100ベクレル/kgを超過。
- ・平成24年産以降も、100ベクレル/kg超過がみられるものの、その割合が低下。



(注)・平成27年1月26日までに厚生労働省が公表したデータに基づく。( )内は検査点数。  
 ・検出下限値未満は25ベクレル/kg以下として集計。  
 ・生産年度と検査年度が異なる場合は、生産年度の結果に含めている。

農林水産省

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

2012（平成24）年産の大豆は、2011（平成23）年産に比べると、基準値超過の割合は減少したものの、超過が見られたため、放射性セシウム濃度低減のための調査研究を行いました。

2013（平成25）年産以降においては、その結果を踏まえて、カリ施肥などの放射性セシウムの吸収抑制対策を行いました。この結果、2014（平成26）年産においては、2015（平成27）年1月末までで約2,000点を検査し、基準値を超過したものは一部地域に限られた2点（0.1%）と大きく減少しています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日

本情報は事故当時（2011年）～2014年度の情報です。

関連Q&A

・4章 QA3 農林水産物の安全性を確保するためにどのような取組がとられているのですか